

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
障害者スポーツに関する調査研究・担当理事
浅見俊雄

(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS) では、平成 24 年度から障害者スポーツの現状に関する調査研究班を立ち上げて、日本における障害者スポーツ、特に国際レベルでの競技会への参加を目指している競技者を取り巻く社会的環境の現状分析と、その改善の方策を探る社会学的な調査研究を行っている。

初年度の 2012 (平成 24) 年度には、体育学、スポーツ科学、健康科学など運動やスポーツに関係する学部、学科を設置していて、健常者のアスリートの育成・強化やそのための指導者育成、および研究と研究者育成の場ともなっている大学を対象に、障害者アスリートに関してはそうした教育、研究の環境がどのような状況にあるのかを調査して、ごく一部の大学にしか、障害者アスリートに対応する環境が整っていない実態を報告した。

2013 (平成 25) 年度には、2004 年以降のパラリンピック大会に出場した競技者、および指導者を対象に、競技環境や社会的、経済的環境についての調査を実施し、その置かれている競技環境を明らかにした。またパラリンピック競技団体の組織、機能、運営の実態について、アンケート調査とともに、一部の団体についてヒアリング調査を実施して、極めて厳しい環境の中で努力されている実情を知ることができた。これらの内容は、それぞれの年度ごとに報告書を作成して刊行している。

本年の活動をまとめた本報告書では、スポーツ・キャリアの分析から、障害者スポーツ選手の発掘、育成、強化の課題を明らかにするとともに、今後の方向性についての論考を行った (1 章)。またこれらの課題について、指導者、スタッフ、アスリートに対するヒアリングを行なって、課題と今後の方向性を整理した (2 章)。

さらに本年は、インターネットによるウェブ調査によって、一般の人の障害者スポーツに対する関心度、認知度を調査した (3 章)。その他、2 年前に実施した大学への調査を再度行って、2020 東京オリンピック・パラリンピックの決定によって、大学での障害者スポーツの環境がどう変わったかを調査し (4 章)、また財団が初めて神戸と東京で実施した障害者スポーツの環境についてのシンポジウムの内容を紹介した (5 章)。

これらの報告書を読んでもいただければ、日本の障害者スポーツの社会的環境は多くの課題を抱えており、2020 東京パラリンピックに向けて、行政、民間が協力してこうした課題を改善していかなければならないことがわかるであろう。そうした動きにこの報告書が広く活用していただけることを強く期待している。